

令和3年度都城市総合教育会議 議事録

日 時：令和3年7月7日(水)午後1時30分～午後3時
 場 所：都城市役所本館4階 秘書広報課前会議室
 出席者：都城市長 池田 宜永、教育長 児玉 晴男
 教育委員 赤松 國吉、中原 正暢、
 濱田 英介、岡村 夫佐

発言者	内 容
吉永総合政策部長	<p>定刻になりましたので、ただいまから令和3年度都城市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>本日の進行を務めさせていただきます総合政策部 吉永でございます。どうぞよろしくお願いいたします</p> <p>はじめに 池田市長からご挨拶をお願いいたします。</p>
池田市長	<p>みなさんこんにちは。令和3年度の総合教育会議ということでよろしくお願い申し上げます。教育委員の皆様には、常日頃から教育行政にご尽力いただき誠にありがとうございます。感謝申し上げます。</p> <p>まずは、ワクチン接種、コロナ対応についてあります。学校におきましては、昨年度から子ども達には不自由をかけている状況でございます。今年度は、昨年度に比べ少し経験値が上がっている状況でありますので、できる限りですが休校しない対応をとれておりまして、なんとか学校を開けている状況ということになっております。一方で、地域活動におきましても制約がある状況となっております。夏の活動で言いますと、おそらく地域の祭りもできないということになっております。このようななか、子どもたちは夏休みが始まりますが、夏休み中に思うような活動ができないかもしれないと覚悟しているところでもあります。そういった状況を乗り切っていくしかないと思っております。学校関係では教育委員会にご尽力いただき、ここまで持ってきていただいております。改めて感謝申し上げます。今は宮崎県におきましては、本市を含め感染についてはちょっと落ち着いた状況になっておりますので、その間に何とかワクチン接種を進めたいと思い、取組を進めているところであります。報道にありますとおり、ワクチン供給が本当に滞っておりまして、我々も非常に困っている状況があります。64歳以下の一般の方の接種券はまだ配送しておりません。接種券の配送をしていきたいと思っておりますが、供給量がはっきりしていないと接種を中止する等の対応をとらざるを得なくなり、混乱が生じますので、供給量の確定を待ちたいと思っております。その一方で65歳以上のワクチン接種については今月末までに、接種を希望する方には全員接種を終わらせるという方針も政府から出ていますので、行政もなんとかワクチンを確保し接種を進めております。おそらくは希望する方は、65歳以上は約54,000人の内8割ぐらいは接種を受けるのではないかと覚悟しております。</p>

	<p>ワクチン接種は感染が広がっていない間にいかに進めるかが非常に重要だと思っております。学校の先生方については、本市におきまして優先接種としておりますので夏休みの間に希望される先生方は接種できるように手配を進めております。少しずつワクチン接種が進んで、日常が取り戻せるようにしっかり取り組んでまいります。教育委員の皆様にご理解とご協力をいただきたいと思いますと思っております。</p> <p>本日は2つのテーマを予定しております。忌憚のない御意見をいただき活発な意見交換になればと思っております。本日は宜しく願いいたします。</p>
吉永総合政策部長	ありがとうございます。続きまして、児玉教育長ご挨拶をお願いします。
児玉教育長	<p>みなさんこんにちは。令和3年の七夕の日に皆さんで集うことができ本当にありがたいと思っております。これも市長並びに市長部局の方々のご努力のおかげだと思っております。誠にありがとうございます。さて今市長からありましたように、都城市に勤めている教職員につきましては、優先接種をさせていただくということで、大変ありがたく思っております。これで先生方も安心して学校で教えることができるのではないかと思っております。また本日のテーマにありますように国スポ、障スポでありますけれども、これもコロナの影響で1年延期となりまして、令和9年に本市が輝ける一大イベントとなっております。本日のテーマはそのレガシーの活用についてと、デジタル技術を活用した不登校対策についてです。不登校対策は喫緊の課題となっております、早急に対策が必要な状況となっております。このような話題を取り上げていただきましたことにつきましてもありがたいと思っております。この場でより良い議論を深めながら将来に向けて一緒に歩んでいきたいと思っております。本日は宜しく願いいたします。</p>
吉永総合政策部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは次第4の意見交換に入ります。以降の進行につきましては、池田市長にお願いいたします。</p>
池田市長	それでは意見交換に入らせていただきます。まずは「(1)国民スポーツ大会に向けた取組とレガシーの活用」事務局より説明をお願いします。
総合政策課長	<p>はい。総合政策課長の西川です。よろしく申し上げます。それでは、座って説明させていただきます。</p> <p>～ 国民スポーツ大会に向けた取組とレガシーの活用 ～</p> <p>説明は以上でございます。</p>
池田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは(1)国民スポーツ大会に向けた取組とレガシーの活用について御意見はありますでしょうか。</p>
赤松委員	第81回国民スポーツ大会、第26回全国障害者スポーツ大会が令和9年度に本市で実施されることを心から歓迎します。令和7年度に完成を目指す新宮

	<p> 岐阜陸上競技場をはじめ都城運動公園や山之口運動公園の整備など素晴らしい各施設整備がしっかりとした計画に従って、順調に進められていること、何とも素晴らしいことであると思って心から応援しているところです。 </p> <p> その中でも、スポーツを支えるスポーツコミッションの設立を国が推奨しておられることを受けて、本市でも、スポーツと地域資源を戦略的融合させて地域活性化を図るため様々な取組を進めてきておられます。その中核において地域活性化を推進する要をスポーツコミッションとして設定し、着実に都城市民をはじめ、本県民が希望と期待をもって活躍できる国民スポーツ大会を実現するよう計画が進められていること、心から応援してまいりたいと考えています。 </p> <p> スポーツコミッションの良さは、スポーツの窓口をワンストップ化することにより、責任体制をより明確にし、スポーツクラブやスポーツ協会、障がい者スポーツ、スポーツ少年団、色々な団体を有機的に効率的に機能させていこうとする考え方だと考えます。その中で、資料 10 ページに描かれている歯車のように円滑に回っていくことが一番の課題だと思っています。円滑に歯車を回っていくためには、それぞれの連携、相互理解、スポーツコミッションの役割を理解するための取組がポイントになると思います。 </p> <p> この大きな 2 つの大会が令和 9 年度に開催されることに伴って、発生する経済効果は大きなものがあり、これが都城市の今後への大きな一歩になるのではないかと考えております。 </p> <p> このスポーツコミッションを中心として資料 10 ページにあるような歯車が円滑に回っていくためには大きなエネルギーが必要だと思っています。私どもも是非ご協力したいと考えております。 </p>
池田市長	<p> ありがとうございました。他にございませんか。 </p>
岡村委員	<p> スポーツコミッションの設立の趣旨に賛同しています。資料 6 ページの「スポーツの枠を超えて連携」とありますので、コミュニティ文化課の取組である文化合宿の誘致も併せて行い、レガシーを活用すれば良いと思います。 </p> <p> 各利用団体の利便性を考えるとワンストップは非常にありがたいと思います。新しい組織を作るのは人材の確保等を考えても大変難しい。既存の組織にスポーツコミッションの機能を加えてはどうでしょうか。例えば、みやざき観光コンベンション協会などの業務内容も参考になることがあるのではないかと思います。また、他の地域等の取組も参考に進めていただくと良いと思います。 </p>
池田市長	<p> ありがとうございました。他にございませんか。 </p>
濱田委員	<p> 国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会の開催にあわせて整備される、市内競技場や近年整備された早水公園等の有効活用をはじめ、スポーツを通じた地域活性化やスポーツ教育の推進は、時機を得た事業になると思います。 </p> <p> その際、総合政策課から提案された、「スポーツコミッションの設立」は重要でしょう。そして、資金が必要になるとしても、国からの補助金頼みにならないよう、民間企業や市民ボランティアの活力を最大限活かす工夫をしていただきたいと思っています。すでに積極的な活動をしているスポーツ団体や県外・海外 </p>

	<p>からもアイデアを募集してもよいかもしれません。温泉のある霧島市のような近隣市町村との連携も、必要となると思います。また、当面は事業内容も総花的にならないよう、この地域の長所・特徴を活かすものであって欲しいと思います。</p> <p>教育委員として思うことは、幅広い世代にわたって、スポーツが身近で、気軽に参加でき、望む者には質の高い指導、アドバイスを受けられるとよいと思います。特に、部活など学校スポーツにおいては、科学的、合理的な指導、コーチが受けられる体制が望まれます。AI の導入も進むのではないかと思います。</p>
池田市長	ありがとうございます。他にございませんか。
中原委員	<p>私もほかの先生方と同様、この大会には大きな可能性を感じております。また、とりわけレガシーの有効活用にも大きな可能性を感じております。</p> <p>スポーツを通じて人生を豊かに生きていくこと、スポーツを通しての教育を理想とするならば、身体の障害によってスポーツは縁遠いと感じている方々にフォーカスすることはとても大切なことと思います。もちろんこの大会は障がい者向けの競技もありますが、レガシーの有効活用にも取り入れていくことは、スポーツの分野からも都城市が人に優しいといったアピールにも繋がると思います。このような観点も計画の中に取り入れることにより深みのある事業になると感じております。</p>
池田市長	ありがとうございます。他にございませんか。
児玉教育長	<p>赤松委員もお話になられた、資料 10 ページに「ハブ&マネジメント機能の強化」で、市民の参画誘導とありますが、私もこのとおりだと考えております。よく市長は人材がとても大切だと申されます。スポーツを通じたイベント等において、リピーターが多いということが盛り上がる要因だと思っております。そこで、どれだけ心を込めたおもてなしができるか、都城市の人情面でのアピールもこの中に含まれるのでないかと思います。</p> <p>今現在、都城市の子どもたちは、地域行事の参加率が非常に高いデータがございます。教育委員会としましても、そのように子どもたちを育てて、ボランティアができる人材の育成について協力していきたいと思っております。</p>
池田市長	<p>ありがとうございます。先生方からの意見もいただきましたので、私からも考えを申し上げたいと思います。</p> <p>前から都城はほかの県内の地域に比べてなかなかスポーツ施設が充実していないとずっと言われている中で国スポの話があり、県からは分散開催にする提案がありました。その中で、県陸上競技場と体育館で話がきておりました。</p> <p>私が就任してすぐ早水公園のサブアリーナと武道場の整備が長峯前市長からの引継ぎありましたが、色々ありまして整備見直しを行いました。各業界、団体に話を聞いた上で、早水体育館と武道館を整備いたしました。既にご理解いただいていると思いますが、この話が今回の話に繋がってきております。早水に市の体育館がメインアリーナとサブアリーナで2つと武道館がございます。妻</p>

ヶ丘の都城運動公園の武道館と体育館を今度解体いたしますけれども、解体後に資料4ページになるわけです。それは市所有の体育館等武道館は早水に集約するというを受けて、この整備に繋がってきているということです。なかなかそのあたりを理解していただくことに苦労いたしました。その様な中で、先程言った県からの話であり、私としては、体育館は早水をちょうど整備した後でしたのでもう十分だなと思っておりました。プールもありましたが、私としてはできることなら陸上競技場をと思いました。なぜなら都城の陸上競技場では、都城陸上競技場が一番立派な陸上競技場ですが第4種と言われている、一番下の陸上競技場です。今度できる県陸上競技上はメイン1種でサブですら3種ということで地域にとってはこれを誘致することが1番は地域貢献が大きいだろうという発想のもとで誘致に取組、山之口に持ってくることができたことは良かったと思っています。都城はスポーツ施設が充実していないという状況の中で一步ずつ前に進んできて、ここが今度は都城運動公園もこういった形でテニスコートを整備が進んできております。

濱田先生が財源の話も少しおっしゃいましたけれども、やっぱり国からの交付金をもらうことになりまますけれども、そこまで大きい金額がない中で、今本市で取組んでいるふるさと納税がやはり政策の下支えを本当にしてくれているというのは事実であります。そういったものが相まって今に至るということ、ぜひご理解いただきたいと思っております。

私自身も今年度デジタルの活用を進めておりますけれども、スポーツ合宿と岡村先生からお話いただいた文化合宿もかなり前から取組をしておりますが、今後の政策の柱としても考えております。スポーツとデジタルというのは本当に本市にとっては今後10年タームで考えても大事な政策の柱になると私は思っております。こういったものは、自治体しか作ることができませんのでしっかりと県との連携をとり整備をしていくということが、我々行政としての役割だと考えております。その一方、賛辞や同意いただいているスポーツコミッションですが、作るというよりは今度は管理も含めたところも、国も進めているように地域と連携をしていく、かつ地域の活性化につなげていくというところに持っていくというのが先生方もご理解いただいているイメージかなと思っています。資料の9ページ10ページにあります、インナー戦略アウター戦略とか先程お話があった歯車をどうしっかり回すかというところもありますけど、スポーツコミッションは全体をうまく回すために、個々へ目配せをして、どのように相乗効果を生んでいくのかという調整をすることが重要だと思っております。

本市も重要な政策だと思っておりますので、このスポーツコミッションについて、我々行政としてもしっかり関わっていき、真ん中に据えてやっていきたいなというぐらいの思いで取組んでいきたいと思っておりますので是非先生方にはご理解いただきたいと思っております。

先ほど文化合宿の話もでいただけましたけど、そこも連携してやっていき

	<p>いと思います。現在も営業に行くときには、一緒に取組んでくれています。資料にもありますとおり、伸びてきているところでもあります。いい施設ができるということは、良い意味で影響が出てくると思います。ここの中身はほとんどのスポーツも文化もアマチュアです。私が就任してからはとにかくアマチュア合宿を呼んで来るんだと。当時は施設が宮崎や日南に比べたら劣ると。プロとか特に施設がいいか悪いかはとても重要なところですよ。だから、ないもの願っても仕方ないからある施設の中でどのように多くの方に来ていただけるかですので、対象をアマチュアに絞りたいということにしました。優遇措置も目一杯してとにかく一回来てもらいましょうとしたら、かなりリピーターがどんどん増えてきていますので、このような形で伸びてきているのではないかと思います。一回来ていただいて気に入っていただくと次の年も来ていただけるのでそういった形です、全体をとおして今日説明されていることにリンクしています。いい形でスポーツコミッションはそれを一つ基盤になるのかなというふうに思っております。先程も申し上げたように我々行政もスポーツコミッションは今後に向けて大事な組織と思い、しっかり取り組んでいきたいと思っております。当然ながらスポーツ少年団の子どもたちも入っていますし、資料にもありますトップ選手に身近に感じる環境ということには我々もまた力を入れて取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>ほかに、先生方か事務方から追加の説明はありますか。</p>
総合政策部長	<p>先の国勢調査による都城市の人口が16万人を切ることになり、社会保障人口問題が研究所が推計しているよりも高いということになっております。今後人口減少が進んでいく中で、資料にもありますけれど、いかに交流人口や関係人口を増やしていくのかということが地域活性化を引き出していくことに必要なことと思っております。市長からもお話がありましたようにスポーツコミッションがその牽引役になればと期待を持っているところであります。</p>
池田市長	<p>今部長がおっしゃった人口問題でいうと、前回も一緒でしたけれども人口が増えている、もしくは減少率が少ない1位、2位、3位は全く変わっておりません。1位が今回も三股で2位が宮崎市、3位が都城市となっております。宮崎市、都城市、延岡市がひとつの基点となるとよく言われておりますが、さらにその先というのが、宮崎、都城、三股町は地理的に繋がっております、良いか悪いかは別として、ここが核になってくるのではないかと思います。既に県人口の2人に1人がこの圏域に住んでいる状態で、県人口106万人に対して合計で58万人ですので。都城のことで話をさせていただきますと、部長がおっしゃったように人口の問題でも牽引をしていかないといけないと思っております。</p> <p>他に、先生方ございませんか？</p> <p>ないようですので、次のテーマであります、「デジタル技術を活用した不登校対策」に移りたいと思っております。まずは、担当課より資料の説明を宜しく願います。</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>はい。学校教育課長の深江です。よろしく申し上げます。それでは、座って説明させていただきます。</p> <p>～ デジタル技術を活用した不登校対策 ～</p> <p>説明は以上でございます。</p>
<p>池田市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは（２）デジタル技術を活用した不登校対策について御意見はありますでしょうか。</p>
<p>岡村委員</p>	<p>不登校児童生徒の増加傾向をととも心配しています。不登校児童生徒の居場所や学習支援の場として、適応指導教室（スプリング教室）があり、教育相談や学校復帰などにかなりの成果を上げています。ただ、昨年度 220 名に対して延べ 14 名の利用者ということでしたので利用者が少ないことを残念に思います。</p> <p>私は以前、他市の適応指導教室に勤務させていただきました。そこでよく話題になったことは、不登校が長期になればなるほど、学力差が大きくなり学校復帰が難しいということでした。適応指導教室に通級してくる児童生徒の中には、タブレット(スタディプロ)で勉強するもの、家庭でパソコンを使って通信教育をするもの、また塾に通うものなどもあります。しかし、多くの児童生徒は教科書や学校で購入する問題集に取り組んでいる状況でした。経済的な格差が生まれていることを痛感したところです。</p> <p>保護者の経済力にかかわらず、子どもたちは誰でも学習する機会を持たなければならないと思います。都城市の適応指導教室でも、ICT を使った学習を取り入れることで、学びのセーフティネットの機能を持つことができますし、ドリルソフトで個別最適化された学びに対応することができると思います。</p> <p>適応指導教室において、デジタル技術を活用することができれば、オンライン授業によって集団が苦手な児童生徒も学校とのつながりを常を感じるすることができます。また、ドリルソフトを用いた個別最適化された学習によって、学力の保障と学校復帰を目指すことができます。さらに、図書館の利用は、通級しやすい環境として、また、Wi-Fi 環境が整わない家庭にとっても最適だと思います。</p> <p>これまで行われていた適応指導教室の不登校児童生徒に対する居場所作りや支援に加え、デジタル技術を取り入れることでより一層一人一人に応じた支援がなされると思い、ぜひ推進していただきたいと願っています。</p>
<p>池田市長</p>	<p>ありがとうございます。他にございませんか。</p>
<p>濱田委員</p>	<p>適応指導教室に出席する児童は、多少なりとも学校復帰をしたいと希望を持った子どもたちだと思います。今回の学校教育課の提言の、在籍クラスの状況を観ることは、不登校児の学校復帰の準備になると思います。</p> <p>自宅から出られない児童生徒に対しても、個別最適化という括りのなかで、</p>

	<p>ICT 教育は利用できると思われます。しかし、自宅から出られない児童生徒の中には、学校・教室に強い忌避感がある子もいますので、その児童生徒には慎重であるべきかと思ひます。</p> <p>デジタル技術の潜在的な機能はとて大きいと思ひています。例えば、小学6年生が小学4年次の算数を復習したり、小学6年生が中学校や高校の数学を学習したりすることもできます。デジタル技術を活用すれば、学習の個別最適化など、これまで教室では難しかった教育の実現をする可能性が期待できます。ただし、これらの機能は学習する者の意欲を前提にしていますので、不登校になった児童生徒が、まず、学習意欲を持つことが前提になると言えます。ICTありきではなく、個々の子供の意欲や実情が大切であることは申すまでもありません。</p> <p>適応指導教室へ通級することに対してもハードルを感じる子供たちが、市の公共施設、例えば図書館を利用するのは良い考えだと思ひます。図書館以外にも、体育施設、歴史資料館、美術館、公園、森林、農家等々が考えられます。図書館だけをとっても、不登校になった児童生徒の居場所を広げ、社会との接点をつくることにもなりそうです。その利用形態はこれから考えらえると思ひますが、今の適応教室をベースとして、子どもたちが図書館等の利用を選択したり、図書館でどういふ活動をするかといったことを自分たちで決められるよう、子どもたちの自主性を最大限尊重した利用形態が良いと思ひます。</p>
池田市長	ありがとうございます。他にございませぬか。
中原委員	<p>不登校対策にデジタル技術を取り入れることはとて有効であると思ひます。今の課題、時代にマッチした題材であると感じております。コロナ禍において、不登校児童生徒が増加している傾向があることは顕著でありますし、数字としても見えてきておりますので、早急に取り入れていくことは有効であると感じております。</p> <p>一方で、「このような技術があるのであれば、学校に行かなくても勉強はできる」といふ解釈を持つ保護者が出てくるのではないかと危惧しております。</p> <p>また、多動性障害を持っているような児童生徒が増えてきており、学校に行きたくても行けない児童生徒へもデジタル技術を少しずつ活かしていけたら良いと思ひております。デジタル技術の可能性を非常に感じておりますのは、長期入院等で登校が困難な児童生徒に対しても有効的な対策であると感じました。題材は不登校対策ではありまするが、それ以外にも広がりを感じさせる題材であると思ひました。</p>
池田市長	ありがとうございます。他にございませぬか。
赤松委員	<p>コロナ禍の中、これまで当然と考えられ行われてきた行事や取組の内容や形態を根底から見直すきっかけとなったことは、コロナウイルス感染症が私たちに与えた僅かなヒントかもしれないと感じました。具体的には、一堂に会することを通常と思ひこんでいた催し物や行事も、内容や目的を再考することにより、様々な実施の仕方があることに気付かされたと思ひます。</p>

また、民放で報道されていたことではありますが、コンビニエンスストアのレンタル商品やEC商品の返却、返品を格安で行うサービス「スマリ」というのがあるようです。コンビニエンスストアへの荷物配送の隙間をついた配送が通常の配送料金に比べて格安で行われている。通常、コンビニエンスストアに荷物を配送する際に往路は荷物で一杯の配送用トラックの荷台は、コンビニに配送する荷物をおろした際に隙間があく、その隙間を利用すると格安で荷物の返却ができる。そのことに目をつけたあるコンビニが始めた格安返品システム「スマリ」、これまで誰も気づかなかった配送用の荷台に発生する隙間となる空間を上手に活用する、いわば隙間を見つけるビジネスから発想された考え方、このような考え方を教育の世界にも取り込んでいくと新たな活動が生まれてくるのかもしれないと感じました。

また、不登校生徒を取り巻く環境の変化について、兵庫県立大学竹内和雄准教授によると以前の不登校生徒を取り巻く環境と、今の不登校生徒を取り巻く環境は変化してきているとおっしゃっていました。兵庫県立大学竹内和雄准教授の言葉をお借りすると、「以前の不登校生は暇だった。何より友達がいなかったことが最大の悩みだった。しかし、スマートフォンの登場で一変した。漫画サイトに行けば無数の漫画がある。オンラインゲームはスマホを開くと無尽蔵にある。さらに、SNS上で友達を沢山つくるのが可能。男子はオンラインゲーム。女子はSNSが多い。昔のゲームは一人でやった。一世を風靡したテレビゲームも機械にあらかじめ設定されている敵と戦う。しかし、今の人気のオンラインゲームは5人程度の仲間と協力して戦うことが多い。家にいても友達と関わることができる。子どもたちの多くは学校に行かなくてもある程度満足できているかもしれない。」ということをおっしゃっていました。

本市の不登校児童生徒のスマホ所持の状況や不登校児童生徒の学校や学級の友人や他の人との結びつきがどのような状況であるのか分析的考察が必要になりますが、不登校児童生徒を取り巻く環境が従来と変化してきている現状もあると考えるべきなのかもしれないと思っております。

そのような状況を考慮すると、これまで継続的に指導してきた不登校児童生徒に対する対策に加えて、発想を転換して、本市の公立図書館の利用の繁忙する時間帯の時間的隙間を上手に活用することに繋げて効果をあげようとするのが今回の教育委員会の発想であろうと思っております。市立図書館は、本市の誇る素晴らしい教育文化的施設であり、静かで清潔な雰囲気も素晴らしい。その本市の誇る図書館を利用して、不登校対策に取り組もうとする考え方。午前中は土日や祝日等休日、季節ごとの長期休業日の午前中に比べると比較的用户は少ないだろうと考えられる市立図書館。そこに着目し、これまで、どちらかというと学校の片隅で行われていたともいえるかもしれない不登校対策を、明るく清潔で、前向きに学ぼうという状況を産み出すに最適ともいえる環境である市立図書館を活用するアイデア。大いに賛成であります。

加えて適応指導教室で不登校児童生徒とオンラインで繋がり授業で先生と生

	<p>徒がやり取りすることやドリルソフトを活用して学んだりすることは、竹内准教授が論じている不登校児童生徒同士がスマホを通して結びつきを持っている現状より更に歩みを大きく踏み込むような形となり、不登校児童生徒と先生、不登校児童生徒と学校の結びつきを深め、他の児童生徒との結びつきまで広げる形に繋がる。更に不登校児童生徒が感じているであろう孤独感や疎外感、学校や学級へ失いかけているかもしれない所属感を高めることに繋がる。友達と共に学ぶ喜びや楽しさを思い起こすこと、この心が歓びで震えるような感動が、多くの人と関わりながら何かを達成していくことによって生まれる成就感や達成感であろうと思う。そんな感動は、不登校の解消への引き金に必ずや直結していくものと信じています。</p> <p>本市の不登校対策は、本資料にもあるとおり、積極的に解消へ向けて取り組まれていると思っています。しかし、適応指導教室の一環として、本市の図書館を利用しようとする発想や適応指導教室での一人一台の端末を活用して不登校児童生徒と繋がり、オンライン授業やドリルソフトを活用するなどのアイデアは、これまでの考え方と異なる発想のもとに生まれてきたアイデアだろうと思っています。本市の持つ公的な教育施設や教育的環境について、ハード面やソフト面、視点や発想を全く変えて考えてみると更に効果的かつ有効な活用案や教育指導に対するアイデアが生まれてくるのかもしれないと感じました。</p>
池田市長	ありがとうございます。他にございませんか。
児玉教育長	担当課に質問があります。現在、図書館を使っている生徒がいたり、資料にあるように適応指導教室と在籍学校の教室とを実際にオンラインでつないでいたりしている状況であると思いますが、そこについて今わかっている状況があれば教えてください。
学校教育課長	まず、市立図書館の利用状況について回答いたします。中学校1年生で適応指導教室に行きたい生徒がおりましたので、適応指導教室の見学に行きましたが、自分には空気が重くハードルが高いとのことでした。そこで、生徒と保護者に市立図書館の話をしたところ、是非利用したいとのことでしたので先週から図書館に通っている状況です。今日が3回目の通級となっております。感想として、お母さんから娘に元気が出てきたといった言葉や、娘から「学校や部活に顔を出してみようかな」と言った話がでてきており、とてもお母さんが喜んでおりました。もう一つのオンラインで適応指導教室と在籍学校の教室と結んでいる資料7ページの写真ですが、実際に通級している生徒で、映像は在籍クラスの数学の授業となっております。生徒の感想として「自分は長い間教室に行っていないが、クラスの雰囲気が全然違う。3年生になったのでみんなまじめになっている」といったものがありました。
池田市長	市立図書館やタブレットの活用はいつから始めたのですか？
児玉教育長	今年度の途中から試行とした形ではじめました。実際に困っている状態の生徒がおりましたので、はじめさせていただきました。
池田市長	非常にいい取組な感じがします。先ほどの中学1年生は入学してすぐに不登

	校になったのですか？
学校教育課長	ほとんど入学当初からです。
池田市長	<p>先ほどの濱田先生のお話にもあったように、この取組が効く生徒と効かない生徒がいると思います。まずは、図書館や適応指導教室に来ることで復帰の目途がかなりあると思います。しかし、ここにたどり着かない生徒もたくさんいると思います。先ほど、岡村先生がおっしゃっていたように、220人の不登校生徒がいて14人ですので1割にも満たない状況を考えてときに、資料にもあるような不登校となるような原因にあった対応があるような気もしております。</p> <p>今取組んでいただいていることは非常に良い取組だと思いますし、復帰する可能性のある生徒にとっては背中を押してくれる大きな取組だとも思います。</p> <p>もうひとつお聞きしたいので、不登校の理由で「無気力」とありますが、イメージがわくようでわからないといった感じなのですが実際はどういったものなのでしょうか？</p>
児玉教育長	<p>実際にとらえどころのないことでありまして、年々全国的にも不登校生徒が増えてきている事実があります。学者が言っていることは「家庭の多様化で、不登校に対するハードルがぐっと低くなってしまっている。うちの子は不登校と隣の家の人に伝えたところ、隣の子も不登校だった。このような関係性で不登校が増えてきてしまっている」と学者は言っております。この「無気力」が学校に行かなくてもいいとか、親の立場としても学校に行かなくてもいいといった考えを持った家庭がこの中にかなりいます。</p>
池田市長	<p>残念ながら実際にこういった家庭が今後増えていくと思いますし、今の220人の不登校生徒が増えていくとなるとここにしか手をつけていけなくなるといった状態になってしまうということですね。</p>
児玉教育長	<p>親の考え方も多少あるとは思いますが、それよりも強いのは本人の意欲が出てきたときには、親も飛び越えて学校に出てくるようになります。学校復帰をするためには、いかに生徒に火をつけるのかだと考えております。その中で、学校の先生方が家庭訪問等をしており、成果として42人が前年度復帰できました。ですがそれでも追いつかない状況となってきております。</p>
池田市長	<p>今回の取組は非常にいいものだと感じております。現在は試行ということですが、まずは復帰の可能性が高い生徒たちが復帰できるように進めていきながら研究をしていくということですね。</p> <p>先生方からは、他に御意見等はありませんか。</p> <p>本日教育委員の先生方からいただいた意見はありがたく受け止め、今回の取組は今後の本市の政策の中心にもなってくると思いますのでデジタルの活用など進めていきたいと思っております。</p> <p>また、これからの先生方には教育委員の立場としてご指導をよろしく申し上げます。</p> <p>それでは、時間になりましたので、以上とさせていただきます、事務局にお返しします。</p>
吉永総合政策部長	<p>本日は活発に議論いただきありがとうございました。大変有意義な意見交換</p>

になったと思います。

以上をもちまして、令和3年度都城市総合教育会議を終了いたします。

本日は、誠にありがとうございました。